

質問事項		選択式回答	記述式回答
経済動向			
1-1	現在の経済状況について、関連する業界、地域等の現状やご自身の知見・経験等を踏まえ、3か月前(5月下旬から6月上旬)と比べて①良くなっているか、②悪くなっているか選んでいただき、その理由をデータや具体的な事例とともに300字以内でご記入ください。	良くなっている	財市場、労働市場で需要が供給能力を下回る状態(いわゆる需給ギャップ)が、予想以上の速さで解消しつつあると考えられる。消費税引き上げの影響はあるが、景気は回復し続けると予想される。
1-2	今後の経済のリスク要因について、300字以内でご記入ください。	—	今後、供給能力が、経済成長の制約になるリスクがある。また財政の長期的な持続性についても懸念が深まり、長期金利が上昇する危険がある。
景気回復の拡大に向けた取組			
2-1	安倍内閣の目指す、経済の好循環シナリオについて、ご意見があれば、300字以内でご記入ください。	—	金融の大胆な緩和は、デフレを止め、企業収益や雇用の回復に貢献している。公共投資も、消費税増税による消費や住宅投資の落ち込みを下支えする効果がある。しかし、持続的成長を達成するには、改革を通じて生産性の持続的向上と女性の労働参加率の上昇を実現する必要がある。(質問3参照)。
2-2	設備投資・企業収益、賃金・雇用、そして消費の拡大について、それぞれ進展しているとお考えになるか、「Yes」、「No」で選び、その理由及び今後の課題等を300字以内でご記入ください。  ①設備投資・企業収益の増加	Yes	企業収益はデフレの脱却とともに回復しており、株価も上昇し実質利子率も低いので、設備投資が拡大する環境は整いつつある。

質問事項		選択式回答	記述式回答
2-2	②賃金上昇・雇用拡大	Yes	景気回復の過程では通常、名目賃金の上昇は物価の上昇に遅れる。しかし労働の需給ギャップが解消しつつあるので、実質賃金もやがて上昇すると期待される。非正規雇用は回復しているが、正規雇用が回復するかどうかは、生産性が持続的に向上するかどうかによる。
	③個人消費の拡大	Yes	消費税増税の影響で一時落ち込むが、雇用の回復とともに、消費も拡大すると予想される。
2-3	<p>昨年、経済の好循環に向けて、政労使会議が立ち上がり、「経済の好循環実現に向けた取組」との文章がまとめられました。</p> <p>その中に記載されている4つの取組(賃金上昇、中小企業等支援、非正規雇用労働者の処遇改善、生産性向上・人材育成)について、取組が進んでいるとお考えになるか、「Yes」、「No」で選び、その理由及び今後の課題等を300字以内でご記入ください。</p>	No	目標は正しいが、手段としては、痛みを伴う改革なしに、持続的な成長を成し遂げることは、今の日本の環境では、困難であると思われる。(質問3参照)。
自由テーマ			
3	<p>その他、政府の政策課題等について、ご意見があれば、300字以内でご記入ください。</p>	—	<p>生産性を向上するには、多少痛みを伴う改革が必要になる。貿易や対日直接投資の自由化、衰退産業保護の削減がこれにあたる。また財政の長期健全化にも、社会保障と税の改革など、困難を伴うものがある。このような課題は、先送りをせず、一層の努力を持って、乗り越えなければならない。</p>